

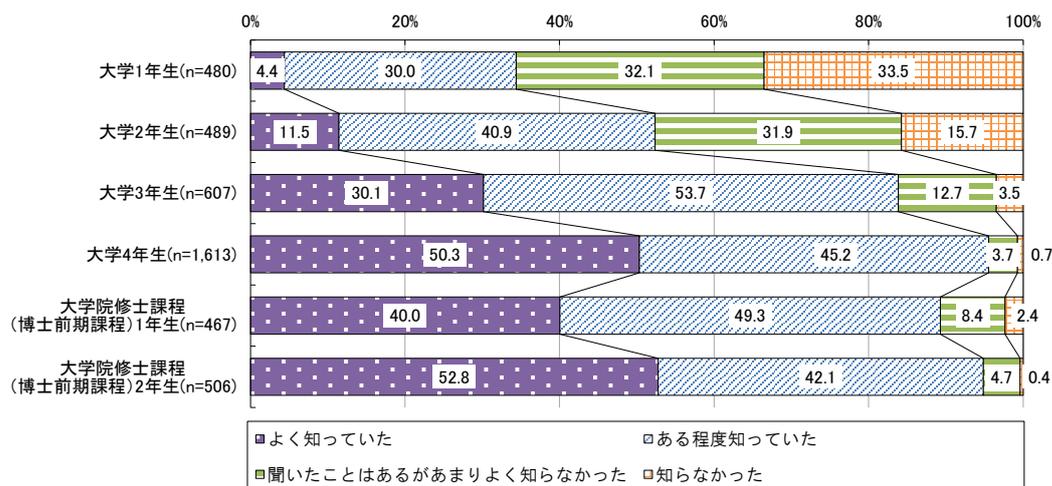
3. 「就職活動時期後ろ倒し」に関する学生の認識

(1) 「就職活動時期後ろ倒し」に関する認識・周知の状況

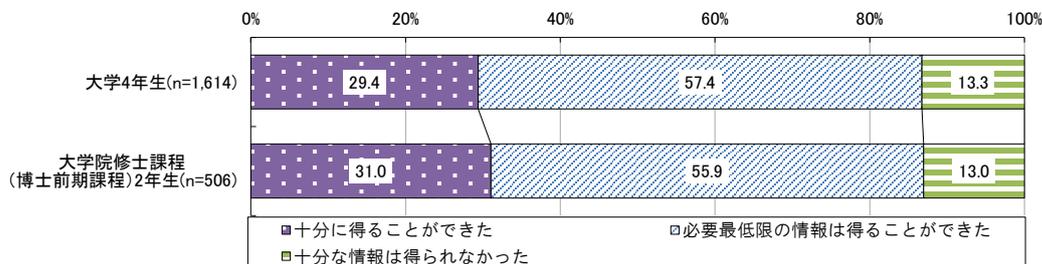
各学年の学生に対し、「就職活動時期後ろ倒し」について知っていたかをたずねたところ¹⁰、大学4年生、ならびに大学院修士課程（博士前期課程）2年生では、「よく知っていた」の回答割合がそれぞれ50.3%、52.8%と半数以上となっており、「ある程度知っていた」の回答との合計は95%程度になっている（図表3-1-1）。なお、大学1年生や大学2年生では、「知らなかった」との回答割合がそれぞれ33.5%、15.7%と比較的高くなっている¹¹。

また、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生に対して、「就職活動時期後ろ倒し」等の就職活動のスケジュールに関する情報を十分に得ることができていたかについてたずねたところ、「十分に得ることができた」との回答割合がそれぞれ29.4%、31.0%となっており、「必要最低限の情報は得ることができた」の回答との合計は、それぞれ86.8%、86.9%と9割近くになっている（図表3-1-2）。

図表 3-1-1 学年別、「就職活動時期後ろ倒し」の認知度



図表 3-1-2 就職活動のスケジュールに関する情報の取得状況



¹⁰ 大学1年生～大学3年生、大学院修士課程（博士前期課程）1年生については「あなたは「就職活動時期後ろ倒し」について知っていましたか」としてたずね、大学4年生と大学院修士課程（博士前期課程）2年生については「あなたは就職活動を開始するにあたり、「就職活動時期後ろ倒し」について知っていましたか」としてたずねた。

¹¹ 昨年度調査では、「知っている」「知らなかった」の二つの選択肢で調査しており、大学2年生の「知らなかった」の割合は44.1%となっている。また、大学3年生・大学4年生でも約2割が「知らなかった」となっている。

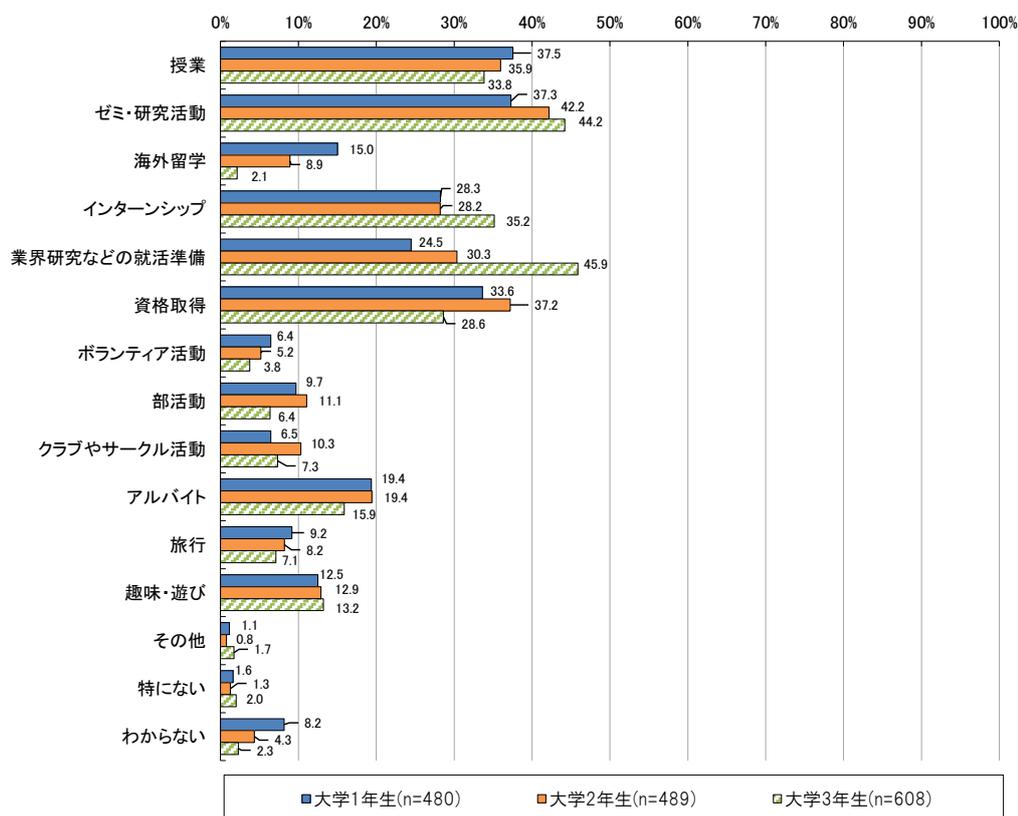
(2) 「就職活動時期後ろ倒し」によって生じた期間の活用

①大学生の認識、実際の活用状況

大学1～3年生、大学院修士課程（博士前期課程）1年生に対して、「時期変更によって生じた期間」（大学3年生時又は大学院修士課程（博士前期課程）1年生時の12月から3月まで¹²⁾）をどのようなことに有効活用しようと思うかについてたずねた。また、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生に対しては、同期間を実際にどのように有効活用したかについてたずねた。

大学1年生～3年生についてみると、全体として、「授業」や「ゼミ・研究活動」などの学修、「インターンシップ」や「業界研究などの就活準備」「資格取得」などの就職に向けた準備に関する回答割合が相対的に高くなっている¹³⁾（図表3-2-1）。特に、大学3年生については「インターンシップ」や「業界研究などの就活準備」に関して、大学1年生・大学2年生と比較して回答割合が高くなっている。

図表 3-2-1 大学1年生～大学3年生、「時期変更によって生じた期間」の活用方法に関する認識（最大3つまで選択）



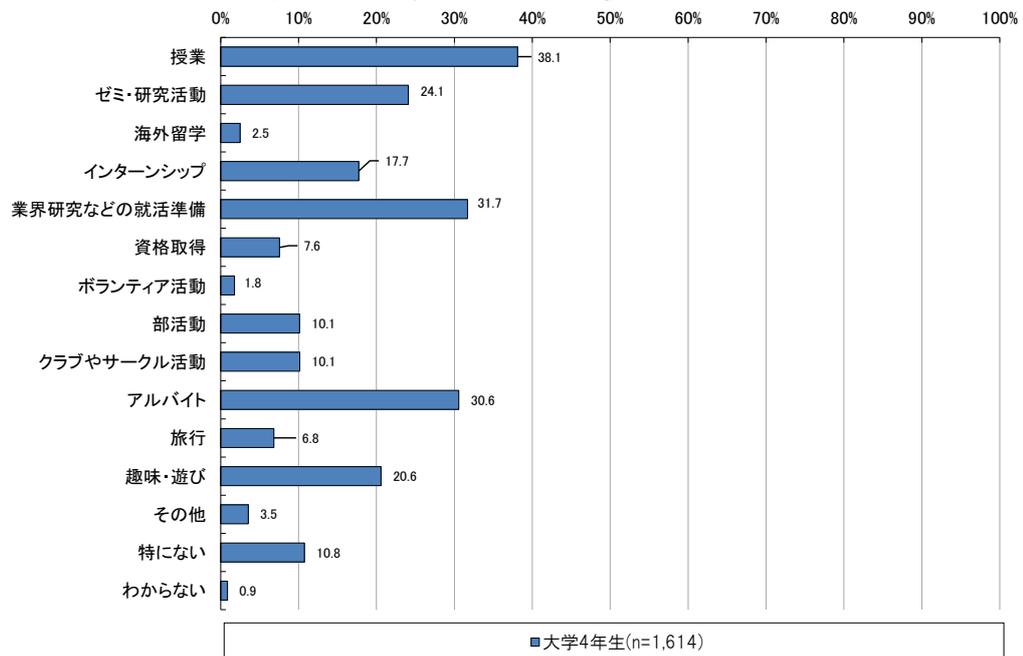
¹²⁾ 以後、本報告書中で「時期変更によって生じた期間」と表記した際には、大学3年生時又は大学院修士課程（博士前期課程）1年生時の12月から3月までを意味する。

¹³⁾ 昨年度調査の結果ではどのように有効活用しようと思うかについて「アルバイト」の回答割合が比較的高くなっており、若干傾向が異なる結果となっている。

大学4年生に関して、「時期変更によって生じた期間」を実際にどのように有効活用したかについてみると、「授業」「業界研究などの就活準備」「アルバイト」の順で回答割合が高くなっている（図表3-2-2）。

大学1年生～3年生の回答と対比してみると、大学4年生の中で「資格取得」のために活用したと回答した者の割合は比較的低く（大学3年生28.6%、大学4年生7.6%）、他方で「アルバイト」については割合が比較的高く（大学3年生15.9%、大学4年生30.6%）なっている（図表3-2-1参照）。

図表3-2-2 大学4年生、「時期変更によって生じた期間」の活用状況（最大3つまで選択）

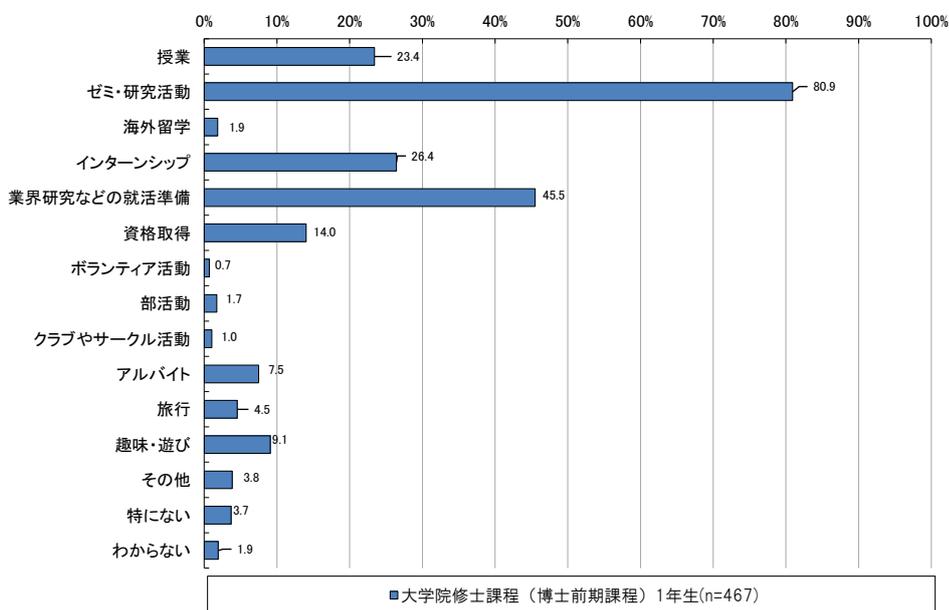


②大学院生の認識、実際の活用状況

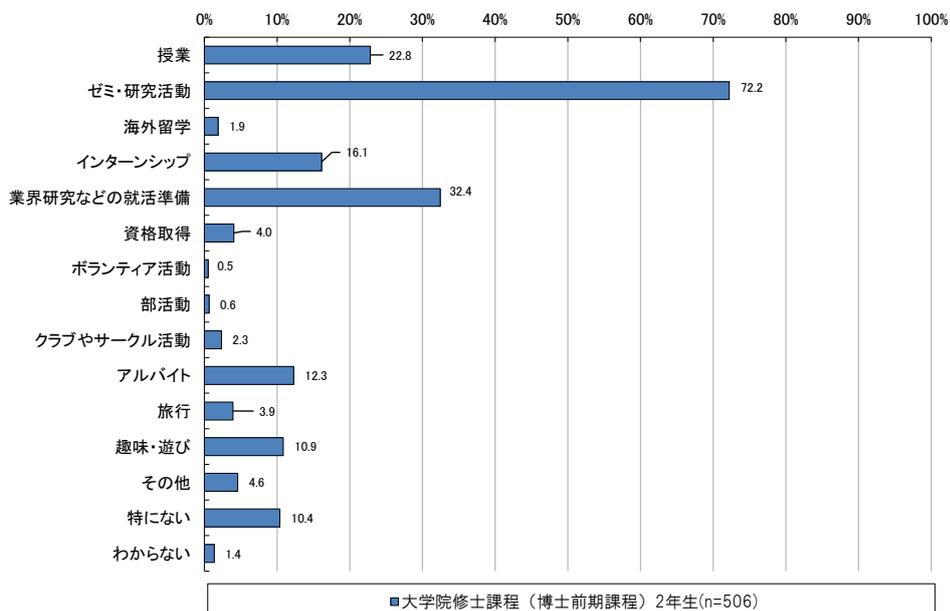
「時期変更によって生じた期間」の活用に関し、大学院修士課程（博士前期課程）1年生の認識についてみると、80.9%の者が「ゼミ・研究活動」と回答しており、特に高くなっている（図表 3-2-3）。また、次いで「業界研究などの就活準備」「インターンシップ」「授業」の順で回答割合が高くなっている。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関して実際の活用状況についてみると、「ゼミ・研究活動」が72.2%と回答割合が高く、次いで「業界研究などの就活準備」「授業」「インターンシップ」の順で割合が高くなっている（図表 3-2-4）。

図表 3-2-3 大学院修士課程（博士前期課程）1年生、「時期変更によって生じた期間」の活用方法に関する認識（最大3つまで選択）



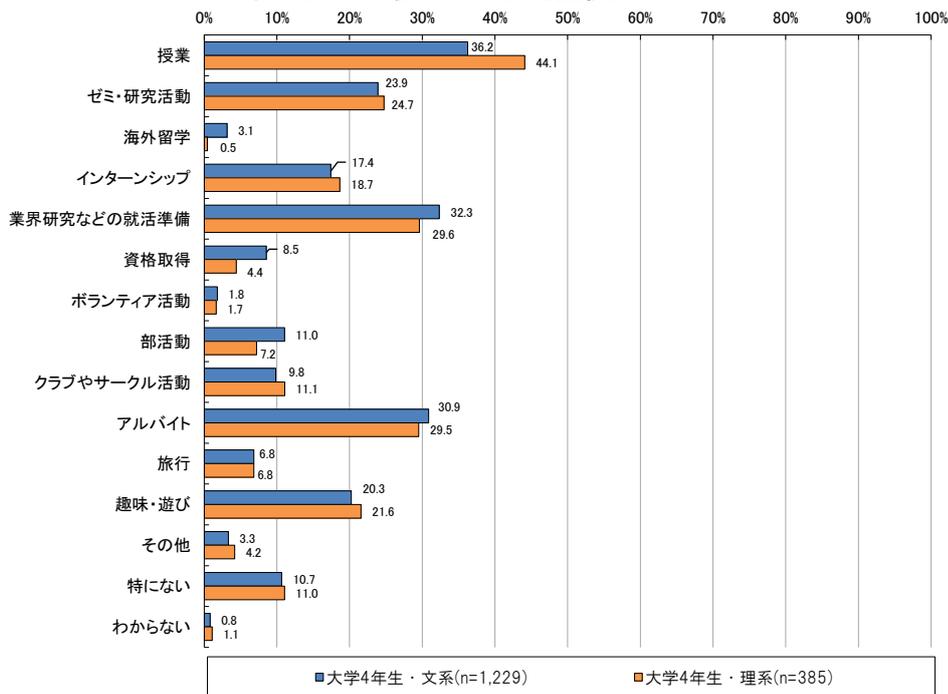
図表 3-2-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、「時期変更によって生じた期間」の活用状況（最大3つまで選択）



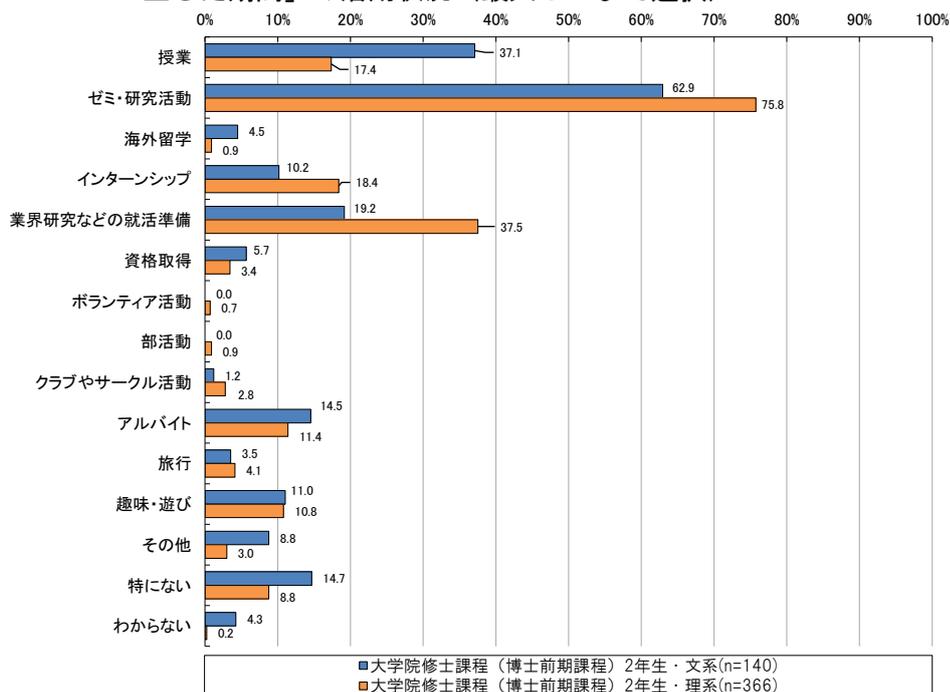
③文系・理系別の「時期変更によって生じた期間」の活用状況

「時期変更によって生じた期間」の活用状況について文系・理系別にみると、大学4年生については文系・理系別に回答傾向にそれほど大きな差異はみられないが、大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、理系の学生では「ゼミ・研究活動」のほか、「業界研究などの就活準備」や「インターンシップ」について、文系の学生に比べて回答割合が高くなっている（図表 3-2-5、図表 3-2-6）。

図表 3-2-5 大学4年生の文系・理系別、「時期変更によって生じた期間」の活用状況（最大3つまで選択）



図表 3-2-6 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、「時期変更によって生じた期間」の活用状況（最大3つまで選択）



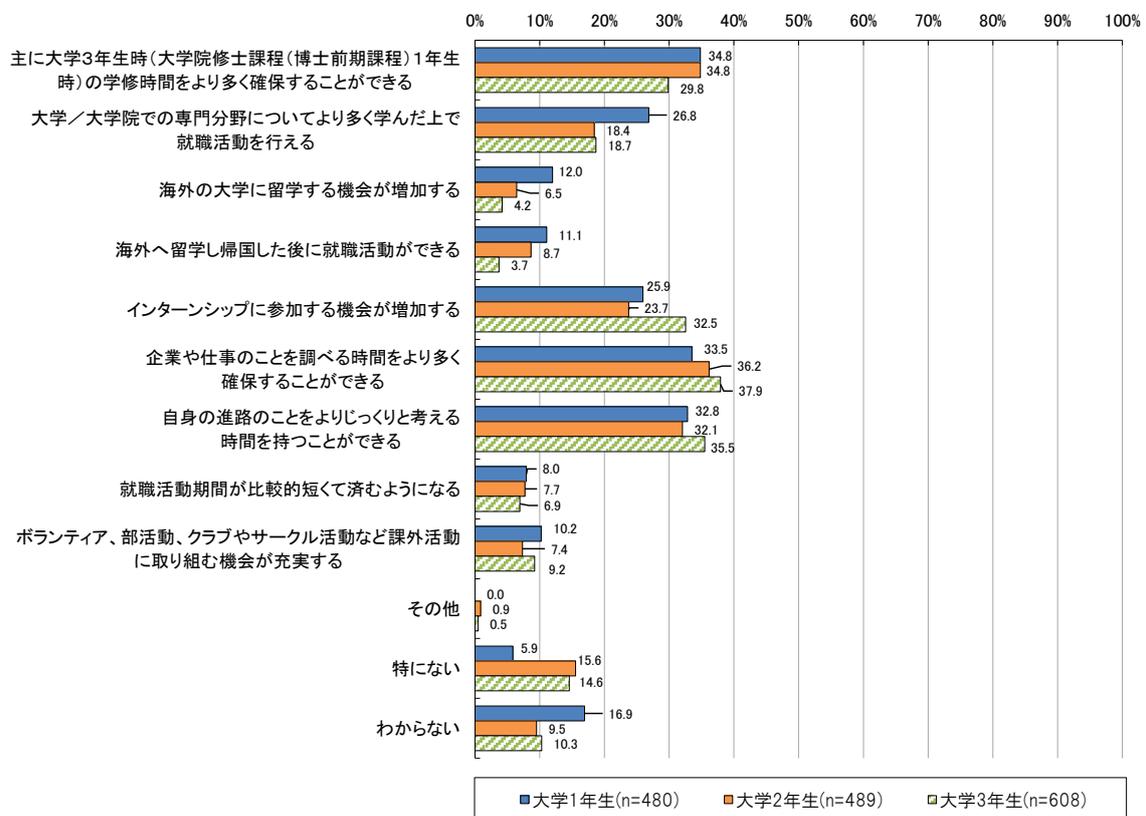
(3) 「就職活動時期後ろ倒し」のよい影響に関する認識

①大学生の認識

大学1～3年生、大学院修士課程（博士前期課程）1年生に対して、「就職活動時期後ろ倒し」について、よい影響があると思うことについてたずねた。また、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生に対しては、実際によい影響があったと思うことについてたずねた。

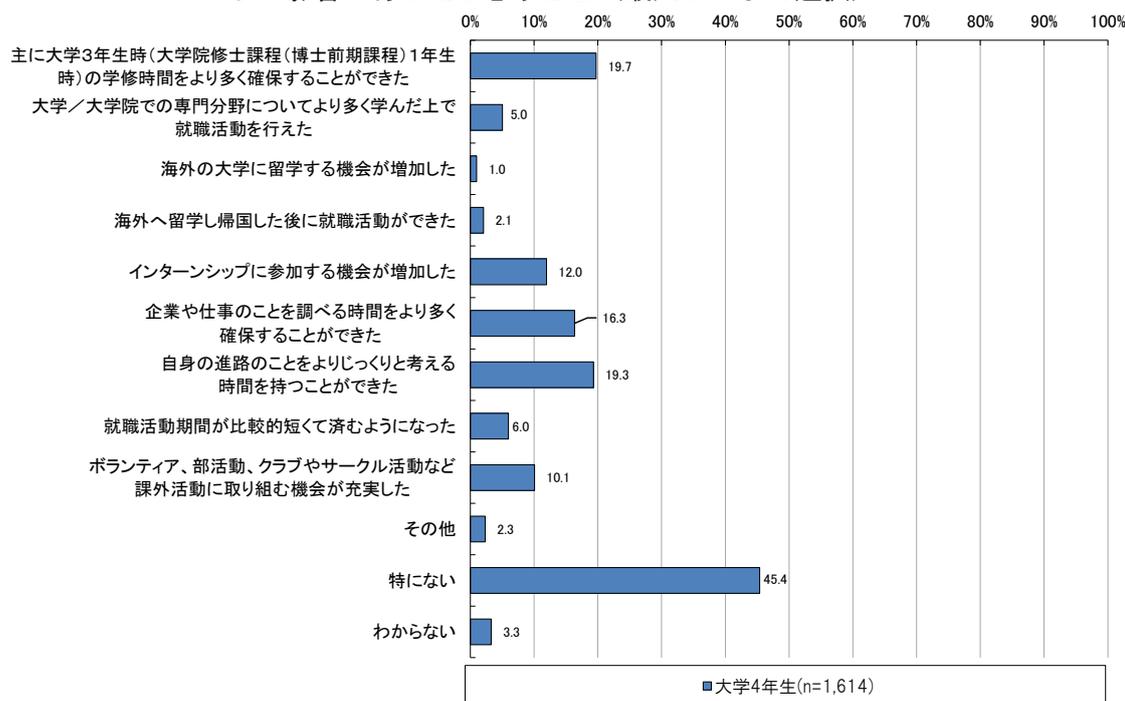
大学1年生～大学3年生についてみると、「主に大学3年生時（大学院修士課程（博士前期課程）1年生時）の学修時間をより多く確保することができる」「企業や仕事のことを調べる時間をより多く確保することができる」「自身の進路のことをよりじっくりと考える時間を持つことができる」について、それぞれ回答割合がおおむね3割以上となっている（図表3-3-1）。大学3年生については、「インターンシップに参加する機会が増加する」の回答も3割以上となっている。

図表 3-3-1 大学1年生～大学3年生、「就職活動時期後ろ倒し」についてよい影響があると思うこと（最大3つまで選択）



大学4年生に関して、「就職活動時期後ろ倒し」についてよい影響があったと思うことについてみると、45.4%が「特にない」との回答であった（図表3-3-2）。他方で、よい影響があったと考えられる点として、「主に大学3年生時（大学院修士課程（博士前期課程）1年生時）の学修時間をより多く確保することができた」「自身の進路のことをよりじっくりと考える時間を持つことができた」「企業や仕事のことを調べる時間をより多く確保することができた」について回答割合が比較的高くなっている。

図表 3-3-2 大学4年生、「就職活動時期後ろ倒し」について
よい影響があったと思うこと（最大3つまで選択）

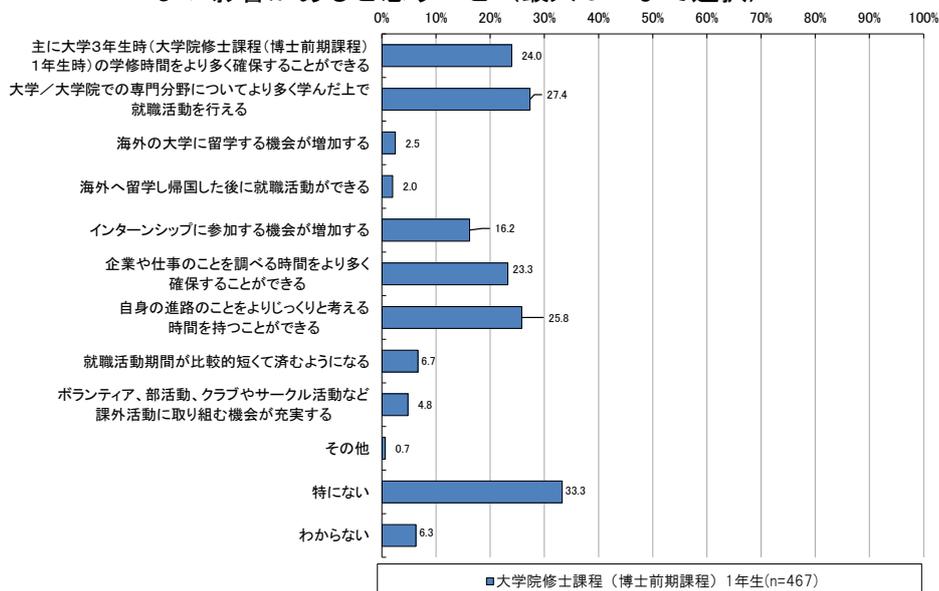


②大学院生の認識

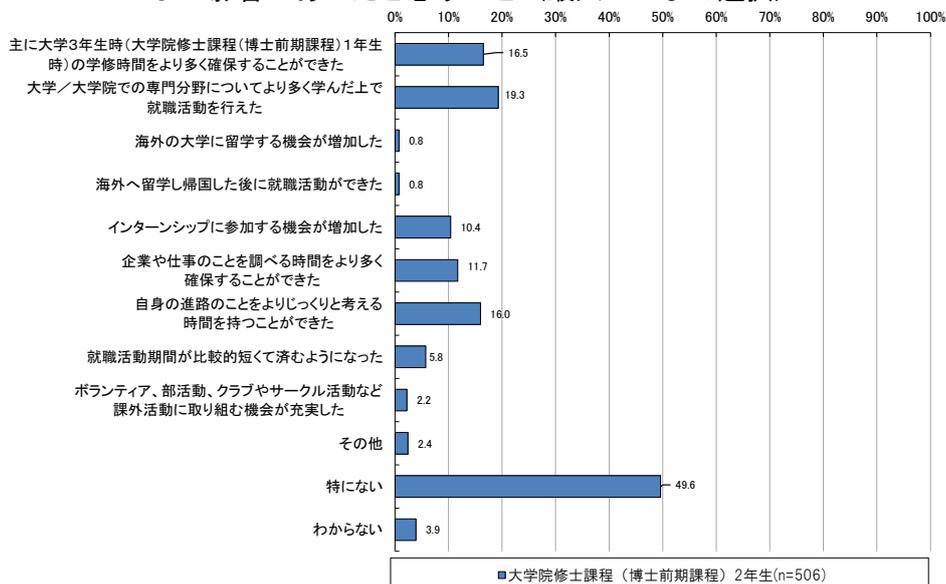
大学院修士課程（博士前期課程）1年生に関して、「就職活動時期後ろ倒し」についてよい影響があると思うことについてみると、「特にない」の回答割合が33.3%と最も高くなっているが、「大学／大学院での専門分野についてより多く学んだ上で就職活動を行える」が27.4%で2番目に高くなっている（図表3-3-3）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関して、よい影響があったと思うことについてたずねたところ、49.6%が「特にない」との回答であったが、他方で、よい影響があったと考えられる点として、「大学／大学院での専門分野についてより多く学んだ上で就職活動を行えた」「主に大学院修士課程（博士前期課程）1年生時の学習時間をより多く確保することができた」「自身の進路のことをよりじっくりと考える時間を持つことができた」について回答割合が比較的高くなっている（図表3-3-4）。

図表 3-3-3 大学院修士課程（博士前期課程）1年生、「就職活動時期後ろ倒し」についてよい影響があると思うこと（最大3つまで選択）



図表 3-3-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、「就職活動時期後ろ倒し」についてよい影響があったと思うこと（最大3つまで選択）



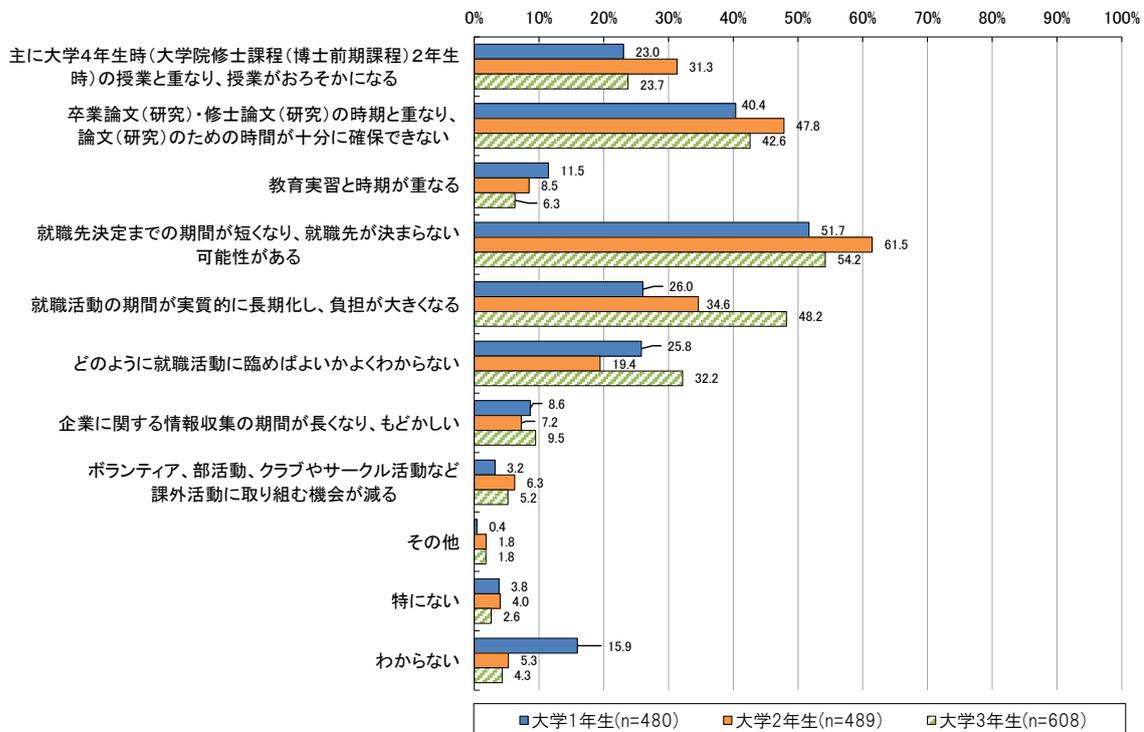
(4) 「就職活動時期後ろ倒し」に関する不安や課題等に関する認識

①大学生の認識

大学1～3年生、大学院修士課程（博士前期課程）1年生に対して、「就職活動時期後ろ倒し」について、不安に思っていることをたずねた。また、大学4年生・大学院修士課程（博士前期課程）2年生に対しては、就職活動中に課題になったことをたずねた。

大学1年生～大学3年生についてみると、それぞれ「就職先決定までの期間が短くなり、就職先が決まらない可能性がある」の回答割合が最も高くなっている¹⁴（図表3-4-1）。また、大学3年生については、大学1年生・大学2年生と比べて、「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなる」や「どのように就職活動に臨めばよいかよくわからない」の回答割合が比較的高くなっている。

図表 3-4-1 大学1年生～大学3年生、「就職活動時期後ろ倒し」について不安に思っていること（最大3つまで選択）

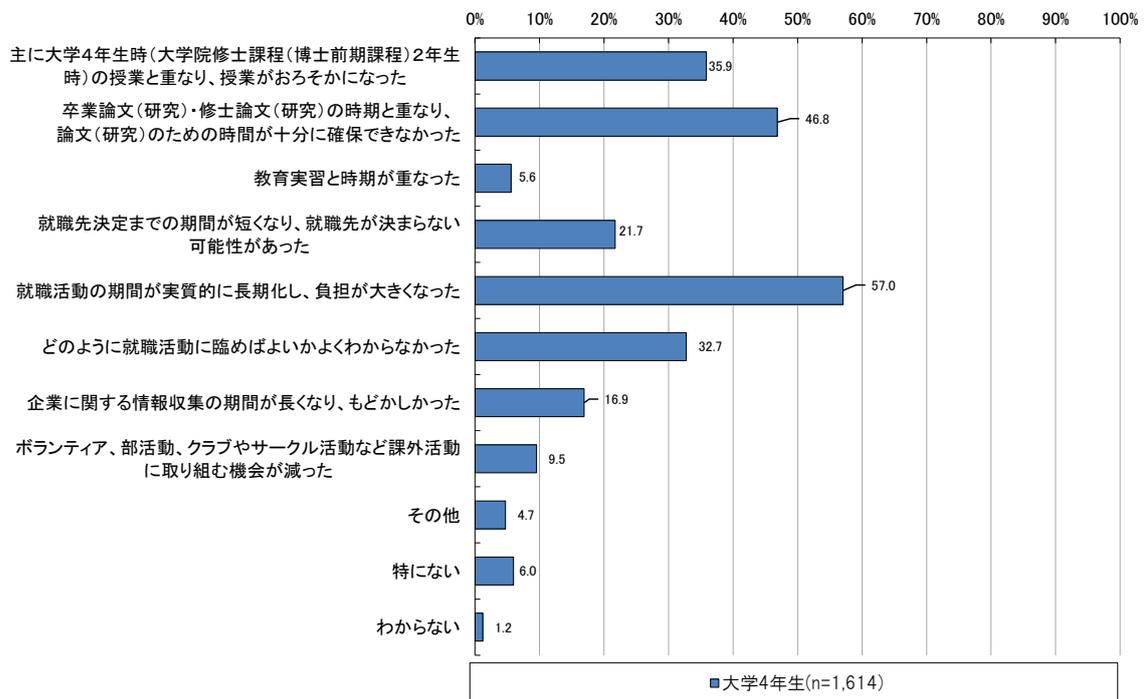


¹⁴ 選択肢の設定等が異なるが、時期の変更にあたっての不安として、昨年度調査においても、「就職先決定までの時期が短くなり、就職先が決まらないかもしれない」の回答割合が高いという結果になっている。

大学4年生に関して、「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったことをみると、「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった¹⁵⁾」の回答割合が57.0%と最も高くなっている(図表3-4-2)。次いで、「卒業論文(研究)の時期と重なり、論文(研究)のための時間が十分に確保できなかった」「主に大学4年生時の授業と重なり、授業がおろそかになった」「どのように就職活動に臨めばよいかよくわからなかった」の順で割合が高くなっている。

なお、大学1年生～3年生の回答と対比してみると、大学4年生の中で「就職先決定までの期間が短くなり、就職先が決まらない可能性があった」と回答した者の割合は比較的低くなっていることがわかる(図表3-4-1参照)。

図表 3-4-2 大学4年生、「就職活動時期後ろ倒し」について
就職活動中に課題になったこと(最大3つまで選択)



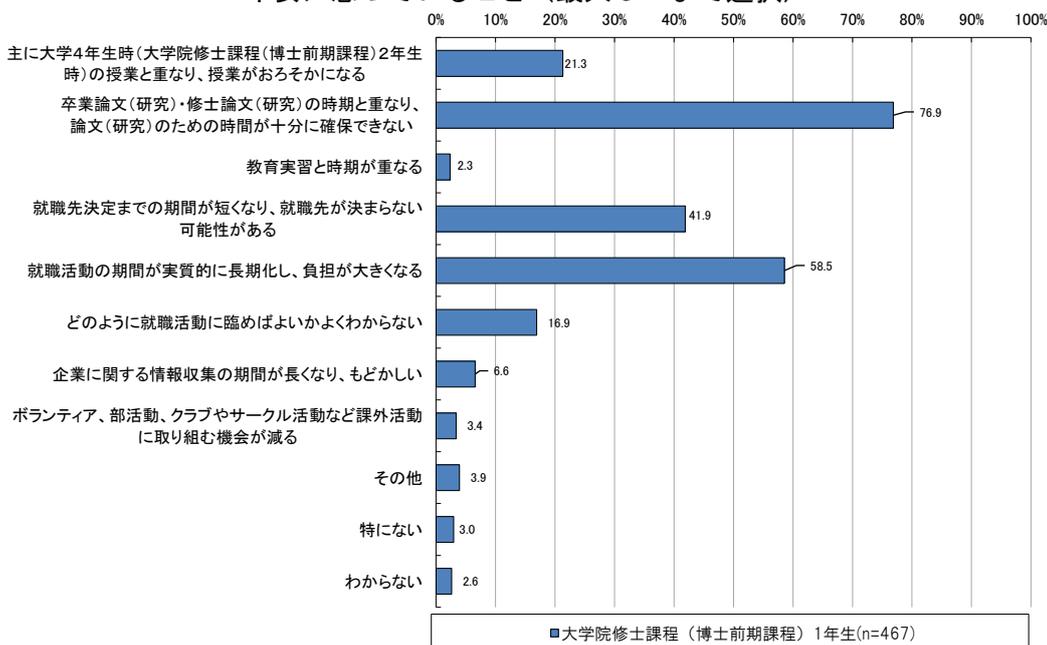
¹⁵⁾ 「長期化」「負担が大きくなった」との回答に関しては、ほとんどの学生にとっては就職活動の経験が本年のみであり、前年との比較ができるものではないことに留意が必要である。

②大学院生の認識

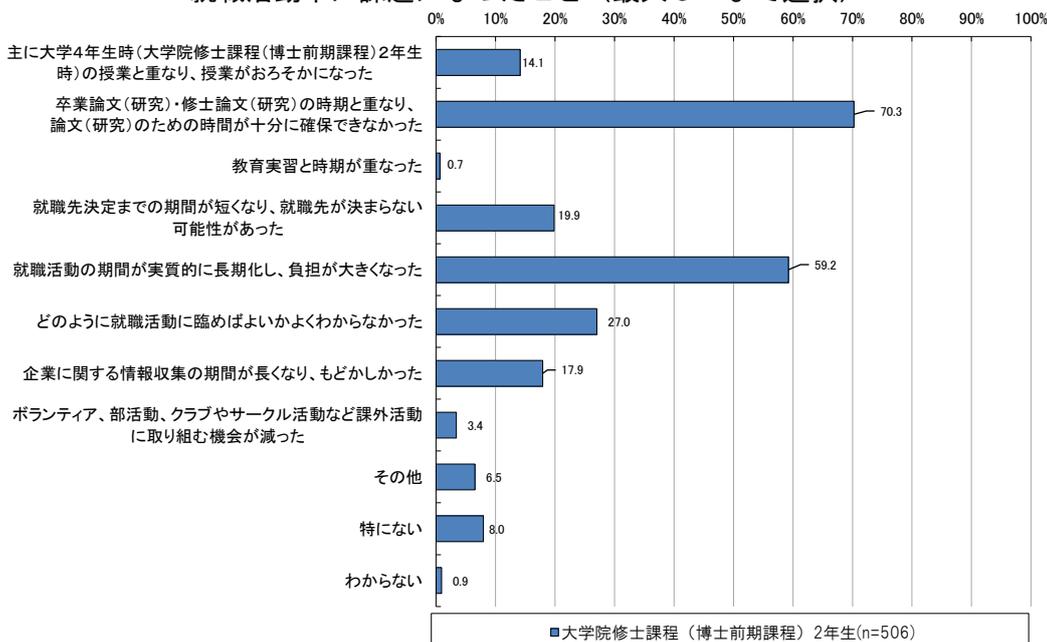
大学院修士課程（博士前期課程）1年生に関して、「就職活動時期後ろ倒し」について不安に思っていることをみると、「卒業論文（研究）・修士論文（研究）の時期と重なり、論文（研究）のための時間が十分に確保できない」の回答割合が最も高く、76.9%の者が回答している（図表 3-4-3）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生に関して課題になったことについても、「卒業論文（研究）・修士論文（研究）の時期と重なり、論文（研究）のための時間が十分に確保できなかった」の回答割合が最も高く、70.3%となっている（図表 3-4-4）。

図表 3-4-3 大学院修士課程（博士前期課程）1年生、「就職活動時期後ろ倒し」について不安に思っていること（最大3つまで選択）



図表 3-4-4 大学院修士課程（博士前期課程）2年生、「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったこと（最大3つまで選択）

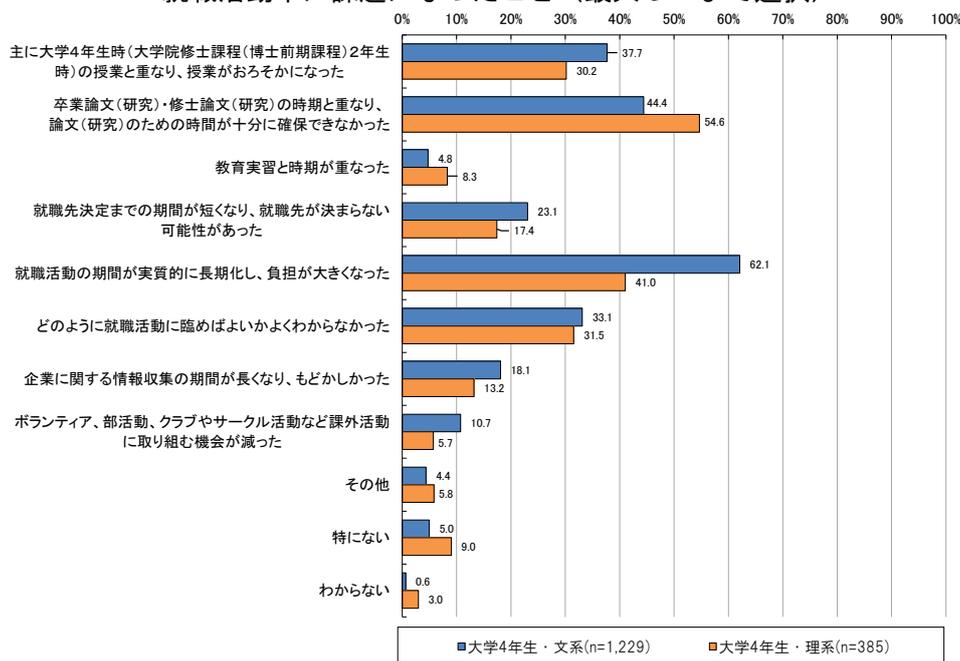


③文系・理系別の課題になったこと

就職活動中に課題になったことを文系・理系別にみると、大学4年生の文系の学生では、理系の学生と比べて、「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった」との回答割合が高くなっている（図表 3-4-5）。

大学院修士課程（博士前期課程）2年生については、文系・理系ともに「卒業論文（研究）・修士論文（研究）の時期と重なり、論文（研究）のための時間が十分に確保できなかった」の割合が最も高くなっており、また、理系の学生では、「就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった」との回答割合が高くなっている（図表 3-4-6）。

図表 3-4-5 大学4年生の文系・理系別、「就職活動時期後ろ倒し」について
就職活動中に課題になったこと（最大3つまで選択）



図表 3-4-6 大学院修士課程（博士前期課程）2年生の文系・理系別、「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったこと（最大3つまで選択）

